

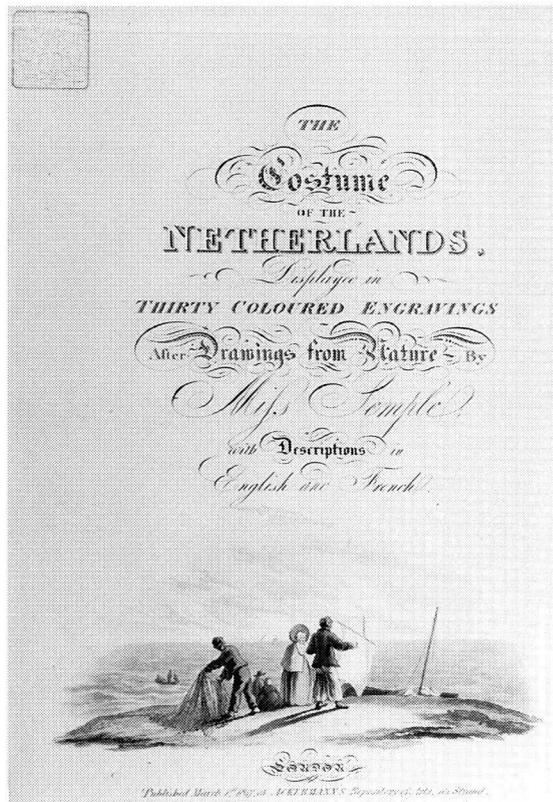
センプル嬢著 『オランダの服飾』 写生による素描からの30枚の彩色版画集

Simple, Miss. The costume of the Netherlands displayed in thirty coloured engravings after drawings from nature. London, Ackermann's Repository of Arts, 1817. 30p. 30 plates (copper. hand-col.) 39.6×26.5cm 383.135-S (文献番号2-28)

Hiler p.793 Colas 2710 Lipp. 958

アクアティント版で彩色も水彩画風のユニークさを保っている美しい本書は、当時一級のファッション・プレートを刊行したロンドンのアッカーマン社の刊本である。オランダ各地の街や村で見かけた子供や婦人の姿をスケッチしたものを版画集としてまとめ、アムステルダム、ロッテルダム、フリースラント（オランダ最北部の州）、ゼーラント、バランシエンヌ（現在フランス北部の古い都市）などの各地方の民俗服30点を英、仏語の解説と共に収めている。

当時オランダは、1810年フランスに併合されたが、1813年ナポレオンの敗北でフランスから解放され、翌年旧オーストリア領ネーデルランドと合して、ネーデルランド王国が成立した。こうした背景のもとに、センプル嬢が描いたオランダ人は、そのほとんどが女性であり、解説も服装の細部にわたり、帽子、持ち物、描写した当時の周囲の様子など詳細に説明されている。図版は芸術的香りも高く、民俗服の貴重な資料になっている。



本書の扉